

先生との思い出の1ページ

水口 里香

先生に初めてお目にかかったのは、私がまだ学生(日本語教育コース M1)の時でした。M1の夏休みに、先生がお茶の水女子大学に就任される前にいらしたオーストラリアのニューサウスウェールズ大学での教育実習の機会が与えられたのですが、そこで色々とお世話になりました。今でも鮮明に記憶に残っていることは、そのころ、まだそれほど研究が進んでいなかった「語彙習得」という研究分野を、修士論文の研究テーマにできるかどうか悩んでいるということを先生にお話しした時、その翌日に、語彙習得に関するセミナーの資料や最新の論文などといった貴重な資料を貸してくださったこと、そして「研究が進んでない」と決めつけることはせず、まずは調べてみることを。調べれば、必ずある。」ということをお話してくださったことです。

先生がお茶の水女子大学に就任された後には、修士論文のことでご指導ご鞭撻を賜りました。先生との面談の後、「24時間以内に、面談内容や面談後に考えたことなどを纏めて、先生にメールで送る」という課題を毎回与えてくださったおかげで、論文について客観的に考えられるようになったこともよく覚えています。そして、「当たり前」と言われていることでも、研究で明らかにされたものとは限らない。「当たり前」のことだろうと、研究する価値がある」というお言葉も、忘れられません。これ以外にも、たくさんのお話を教えていただきました。

まだまだ先生の足元にも及ばない私ですが、先生に教えていただいたことを、今後の研究や教育に生かしていきたいと思っております。先生、心より感謝いたします。

みずくち りか／お茶の水女子大学 グローバル教育センター